



令和 6 年度 事業報告

1. 概 要

令和 6 年度は、急激な物価高騰、止まらぬ少子高齢化、人口減少という非常に厳しい経営環境に置かれた一年であった。

特養施設の入所基準に該当する申請も減少しているが、医療的ニーズが高い利用者への経営上のリスクに対しては、医療、関係機関との連携を図り、安定した運営に努めた。児童福祉においても、大田市内の少子化が顕著である。市内他保育所においては、閉園、定員減の保育園もある中、当法人では、地元は元より他圏域からの受け入れを柔軟に行うことにより、経営の安定化を図った。

本年度より、義務化となったBCP（業務継続計画）において、毎年、全国各地で発生する災害をはじめ、一時期に比べ減少傾向ではあるが予断を許さない感染症に対し、感染状況の周知と確認、感染症発症時の訓練を行った。

介護、保育現場の生産性の向上、効率化、業務負担の緩和として、法人内システム機器のパソコン、モバイル、及び業務用ソフトの更新を行った。ICTの取り組みとして、補助金を活用しながらインカム、眠りスキャン、その他介護ロボットの導入、保育園においては、保育業務支援システムを導入し、業務の一元化、省力化を図った。

前年に続き、全国的な慢性の人材不足に対し、新卒者採用に向け、県内の短大、専門学校への事前訪問等を積極的に行った。加えて、新卒者採用に向けての就職フェアへの参加、介護、保育実習を積極的に受け入れ、新卒者の採用を行った。また、既存の非正規職員に対しては、登用制度を設けて登用を行った。各事業所とも、ホームページの更新を定期的に行い日々の業務の発信（イメージアップ）に努めるとともに、各関係機関の求人サイトへの登録、更新にて、情報発信と人材確保に努めた。

法人の長年の課題でもある人事交流を行った。今後も、業務のマンネリ化を防ぎサービスの質の向上を目指し、職員の離職防止の為、引き続き令和 7 年度は専門家に相談しながら、諸規定等の改正を行い、積極的な人事交流を引き続き図り、公平な人事評価制度を確立する。

財務面においては、毎月のように発表される値上げに影響を受けた。業務、業者等の見直しを行い効率化、節減、節約を職員に呼びかけ、運営会議にて月毎の実績を報告し、共有に努めた。

令和6年度は、職員研修に重きを置き、各研修会参加をはじめ、「聞く研修から、伝える研修」を行い、島根県老施協研修大会にてサンシルバーさわらびの地域貢献の取組事例を発表し、令和7年9月、広島市で行われる中国老施協研修大会へ推薦を受けた。

社会福祉法人の責務として、引き続き地域貢献活動を行った。従来の各地域での清掃活動に積極的に参加した。また、地域交流スペースとして、稲積さわらび庵を開放、ふれあいホーム（旧 DS さんべ）にて、介護予防を中心としたふれあいサロンの開催を行った。

さわらびシンフォニックバンド（SSB）の活動として、令和6年度より新たに五十猛町の敬老会等の依頼を受けるなど活動の範囲も広がり、市内各所で5回の演奏を行なった。

事業所別 利用状況

事業所名	令和6年度目標	令和6年度実績	令和5年度実績
サンシルバー（契約）	98%	97.3%	97.5%
サンシルバー（短期）	1名/日（空床利用）	1.2名/日（空床利用）	
グループホーム	99%	97.3%	98.1%
居宅さわらび	介護 95 名/月 予防 11 名/月	介護 97.7 名/月 予防 8 名/月	介護 97 名/月 予防 9 名/月
ゆうイング（契約）	99%	98.5%	99.0%
ゆうイング（短期）	78%	58.4%	61.2%
デイサービスゆうイング	17 名/日	14.9 名/日	65.4%
サンチャイルド長久さわらび園	125 名/月	128 名/月	126 名/月
ゆうゆう学童クラブ	平均児童数 50 名	平均児童数 49 名	平均児童数 49 名

2. 理事会開催状況

(1) 第242回役員会

日時 令和6年6月4日（火）

場所 ゆうイングさわらび

報告 理事長職務執行状況報告

社会福祉充実残額について

議題 第1号議案 令和5年度事業報告の承認について

第2号議案 令和5年度一般会計決算の承認について（監査報告）

第3号議案 社会福祉法人放泉会職員給与規程の一部改正について

第4号議案 定時評議員会の開催について

(2) 第243回役員会

日時 令和6年10月1日（火）

場所 ゆうイングさわらび

- 報告 理事長職務執行状況報告
令和6年度事業活動収支差額分析
上半期の振り返り
令和7年4月新卒採用（定期採用）の状況について
- 議題 第1号議案 令和6年度一般会計資金収支補正予算の承認について
その他 島根県老人福祉施設研修大会 発表について
- (3) 第244回役員会
日時 令和6年12月24日（火）
場所 ゆうイングさわらび
報告 理事長職務執行状況報告
令和6年度事業活動収支差額分析
監事監査（定期監査）報告について
内部経理監査報告について
- 議題 第1号議案 令和6年度一般会計資金収支補正予算の承認について
第2号議案 徴収不能欠損処理について
その他
- (4) 第245回役員会
日時 令和7年3月25日（火）
場所 ゆうイングさわらび
報告 理事長職務執行状況報告
令和6年度事業活動収支差額分析
- 議題 第1号議案 施設長等の人事について
第2号議案 令和6年度一般会計資金収支補正予算の承認について
第3号議案 令和7年度事業計画の承認について
第4号議案 令和7年度一般会計資金収支予算の承認について
第5号議案 社会福祉法人放泉会職員給与規程及び臨時的任用に関する規約の一部改正について
第6号議案 地域密着型通所介護事業運営規定の制定について
第7号議案 居宅介護支援事業運営規定の一部改正について
第8号議案 社会福祉法人放泉会経理規程の一部改正について
第9号議案 社会福祉法人放泉会評議員選任・解任委員会委員の選任について
第10号議案 社会福祉法人放泉会評議員選任・解任委員会の招集について
その他

2. 評議員会開催状況

- (1) 第85回評議員会
日時 令和6年6月25日（火）
場所 ゆうイングさわらび
報告 なし
議題 第1号議案 令和5年度事業報告の承認について

第2号議案 令和5年度一般会計決算の承認について（監査報告）

(2) 第86回評議員会

日時 令和7年3月25日（火）

場所 ゆうイングさわらび

報告 令和7年度事業計画について

令和7年度一般会計資金収支予算について

3. 監査等の状況

(1) 放泉会監事監査

①令和6年5月27日（月）、5月28日（火）9:00～16:00

定款第20条及び監事監査実施規程に基づく監査

前田正雄、田中昭一両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当理事、各施設長、各部課長、各担当者

②令和6年11月18日（月）、11月19日（火）9:00～16:00

定款第20条及び監事監査実施規程に基づく監査

11月18日（月）9:00～16:00 ゆうイング拠点

11月19日（火）9:00～15:00 さわらび拠点及びサンチャイルド拠点

前田正雄、田中昭一両監事

立会人 瓜坂理事長、中間内部経理監査担当理事、各施設長、各部課長、各担当者

(2) 内部経理監査

内部経理監査規程第5条1項1号に基づく定期監査

令和6年11月18日（月）、11月19日（火）

11月18日（月）9:00～16:00 ゆうイング拠点

11月19日（火）9:00～16:00 さわらび拠点、サンチャイルド拠点、学童拠点

中間内部経理監査担当理事、小谷泰之、加藤幹子

4. 役員等の研修状況

(1) 令和6年10月16日（水）から17日（木）

中国地区老人福祉施設長研修会 広島市 瓜坂理事長、向田理事

5. 苦情相談

事業所名	内 容	対 応
サンシルバー	・冬物衣類購入の依頼を家族にしたところ、左麻痺の利用者に着脱の難しい衣類が二枚あった。着ることができないものがあれば、返品するとの言付けがあり家族にその旨連絡したが、職員間の連絡の不徹底のため、全て値札を外し、記名した。	・どのような衣類が必要か、家族に分かり易く説明することと、連絡ノートを活用し、変則勤務の職員同士の連絡を徹底することを申し合わせる。家族に連絡し謝罪。家族から要望もあり、今後衣類は職員が購入する。

	・入所2か月余りであるのに面会の度に表情や、会話の能力が落ちている。家族からみてもおかしいと思う。状態の変化があれば、詳細な連絡をするべきではないか。 - また、本人の状態によっては、面会場所まで移動せず、居室での面会が可能なことを事前に説明してほしかった。 ・「入浴時、車椅子への移乗時にドスンと落とすように移乗され、怖かった。」と本人から話を聞いた、「母は認知症なので真意はわからないが、気に留めておいてほしい。」家族より訴えあり。	・介護面での連絡は、その都度していたが、看護面、栄養面の連絡も細かに連絡すべきであった。家族への配慮を忘れず、コミュニケーションを取り、信頼関係を築くことを職員と申し合わせ、家族に謝罪する。 ・利用者が安心できるように声かけや、介助技術の向上に努めていく旨伝え、謝罪する。
グループホーム	なし	なし
ゆうイング	なし	なし
DS ゆうイング	なし	なし
居宅さわらび	なし	なし
サンチャイルド 長久さわらび園	・園庭で子どもが意識消失の為救急搬送された。その瞬間をだれも見えていなかったのは、どういうことか。 - また、後日の対応について母親より、副園長・担任以外の職員から何も声掛けがない。園内で周知されていないのか。また、搬送された原因について、誤った情報が保護者の間に流れている。	・市役所子ども保育課、母親、法人交え面談する。倒れた瞬間を見ていなかったことを謝罪その後の対応については、適切な対応をとっていることを大田市とも確認している。ただ、1対1での見守りが難しいことは、ご理解いただきたい。園庭での見守りについては、保育士の配置等確認し、危機管理について指導していく旨伝える。 ・理事長・法人・保育園長・副園長で面談、声掛けが不十分であったこと、職員全体に対応、危機管理について指導することを伝え謝罪する。
ゆうゆう学童クラブ	・シルバー人材センターから派遣された職員が男子児童に対し不適切な対応をしている。事実確認を求めるとともに、今後その職員には児童に係わってほしくない。	・シルバー人材センターを通じ事実確認と謝罪が行われた。職員については契約終了。

〈サンシルバーさわらび(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

＜サンシルバーさわらび＞

1. 快適な生活を送ることができるよう、環境整備に努めた。また、時季にあわせて行事食の提供等、季節感を持っていただけるように努めた。
2. 事前に予約いただいていた面会を継続、家族との繋がりを維持した生活支援に努めた。
3. 外出支援等を実施することができ、利用者の意欲向上に繋げることができた。
4. 法人内での人事交流を実施することができた。
5. 地域での文化祭等への SSB の参加や、各地域での清掃活動等積極的に参加した。

＜相談員部門＞

1. フロア毎に希望される食事や入浴時間に沿って勤務時間体制を検討した。
2. 外出や行事等をホームページにて公開、情報発信に努めた。移乗用リフト、タブレット端末、眠りスキャン等を導入、生産性向上に努めた。
3. 空床が出来た場合には短期入所の利用により、稼働率の維持に努めたが、その結果、空床利用短期入所サービスを含めると 97.3%と目標にはあと一步であった。体調管理により、入院者を減らす事で目標達成に努める。

＜介護支援専門員部門＞

1. 施設内でのサービス（フォーマル）だけでなく、家族対応での外出サービス（インフォーマル）を含めたケアプランを作成した。外出支援は 12 件実施、多職種協働で外出に向けての家族支援も行うことができた。担当者会議やミーティング、又委員会に参加することで、入居者の状態把握ができ、共通認識を深めることができた。
2. 看取りに対する本人や家族の意向調査はできた。看取り同意の入居者 10 名。直接、居室での面会を実施し、家族と一緒に時間を過ごせるように配慮した。嘱託医、各職種が逐一変化する本人の状態について、家族と情報共有し、24 時間シートを基本に対応を検討した。
3. モニタリング様式を変更した結果、これまでの長文で記録するより、計画の継続なのか、変更か、結果がわかりやすく記録できるようになった。
4. 116 件の担当者会議を実施し、そのうち、家族参加は 63 件(54%)。令和 6 年 7 月 10 日から 1 階フロアでコロナ感染対応の為、担当者会議を 1 件延期。2～4 階フロアの担当者会議は家族参加で予定どおり実施することができた。
5. 短期入所は定期的・同一利用者を含め、49 名利用。利用時の様子については、家族や各事業所と連携し、状態把握に努めて、自宅での生活が継続できるように支援できた。

6. 新 LIFE の意向に向けて 4～9 月までの計画書のデータ提出が 10 月 10 日締め切りだったため、フィードバック表が出ず、上半期の分析はできなかった。令和 6 年 8 月 23 日に【介護報酬改定を学ぶ】研修会に参加し、フィードバック表も全国平均、自施設だけでなく、都道府県、事業所規模、要介護度等も入力することができ、より細かい現実的な比較がしっかりできるようになると学んだ。現在は、事業所単位、利用者別でのフィードバック表が出ているため、3 月末には施設・事業所単位での分析会を行うことができた。7 年度は利用者別フィードバック表を担当者会議等で活用し、ケアプランに活かしていく。

<サンナース部門>

1. 担当フロアの入居者の健康状態を把握し、看護ミーティングと全体ミーティングで情報共有を行った。また嘱託医へ早めの報告を行うことで早期対応に努めた。入院者数 40 名。1 か月以上の入院は 5 名だった。
2. 看取りの状態変化は面会時や電話にて家族へ説明を行った。24 時間シートに基づいたケアを多職種共同で実施。入居者、家族が安心して最後を迎えられるように看取りケアを行った。年間の死亡者は 27 名、そのうち看取りは 10 名だった。
3. ユニットケアにおける看護師の役割についての研修会、また医療連携会議内での看取りに関する勉強会に参加した。
4. 職員は毎日の健康チェックの継続。入居者、職員で感染者が出た際はすぐに感染拡大防止に努めた。コロナワクチンは任意接種、インフルエンザワクチンほぼ全員接種した。コロナによるクラスター 1 回。その際の感染者は入居者 4 名、職員であった。インフルエンザでのクラスターは予防できた。
5. 看護体制・業務の見直しを検討してきたが令和 5 年度から改善できていないと思うところが多く、今後の課題である。
6. 担当フロアを持ち、介護職員と密に連携するよう心掛けた。
7. その他、入居者の結核検診を 8 月 1 日、職員健康診断を 5 月 7 日（夜勤者 2 月 7 日）に実施した。

<機能訓練部門>

1. 3 か月ごとの身体機能評価、その他入退院後などの状態変化時の身体機能評価を行い入居者個々の目的、目標に沿った個別性のある訓練が実施できた。
外出希望のある入居者、家族に対し、事前に自宅に出向き適切な介助方法の説明を実施し、外出当日は入居者、家族ともに楽しんでいただくことができた。
2. 入居者個々の身体状況を把握し、他部門と情報共有しながら適切なベッドマットの選定ができた。
褥瘡予防のために、クッションを使用したポジショニングの勉強会を実施し、職員の知識向上を図ることができた。
3. 車椅子の自走、安楽な姿勢の保持など入居者個々のニーズに沿った車椅子、歩行器の選定ができた。
移乗介助用具を適切に使用し、入居者、職員ともに安全に動作を行うことができた。
車椅子の劣化により使用できる車椅子が限られることがあった。修理できる部分

は修理し、買い替えが必要な場合は購入を検討する。

4. 日常生活内での入居者の情報共有は多職種と十分に行えていたが、LIFE のフィードバック表を活用した情報共有については不十分な点が見られたため令和 7 年度以降は担当者会議の場で共有できるようにしていく。

<サンヘルパー部門>

1. 介護支援専門員と共同で 24 時間シート、日課計画表の見直し・作成を行い各フロアで差はあるものの、個々の入居者に合わせてユニット施設としての個別ケアを実施した。
コロナ対応が緩和し家族の面会が増えた事で、情報の共有が図れ、入居者・家族の要望に応える事ができケアの向上（看取りも含む）に繋がった。
2. 4 月より生産性向上推進加算Ⅱを算定。機器の導入や【ムリ】【ムダ】【ムラ】の削減による働き方の改善を実施しマンパワーの代替えに繋がった。
3. 稼働率 98%を目標に掲げ、内部異動や命に関わる業務、法令遵守などに取り組み結果 97.3%。ヒューマンエラーによる事故が原因のひとつ。
介護員全体のスキルアップを図るため、外部研修への参加、事例検討の発表、施設内勉強会やキャリアアップへの資格取得のサポートを実施した。
トリニティカレッジ専門学校の実習、初任者研修の講師派遣を行い 2 名就職へ繋がった。
事例検討の発表を通して地域活動（土江・稲用）を実施した。
4. コロナウイルスによる感染対応として、初動（会議→準備→実施→評価）が早かった為、早期の期間で終息することができた。

<サンキッチン部門>

1. 日頃からの食事の観察を行い、入居者の食事状況の把握に努め、栄養ケア計画書作成の参考とした。また、必要時には多職種で食事形態・内容・量・自助具等の検討を行い、健康や安全な経口摂取が維持できるよう努めた。LIFE のフィードバックを担当者会議等で活用し、栄養ケア計画書に反映させていくことが次年度への課題である。
2. 令和 6 年 4 月 1 日時点での療養食加算対象者は 9 名であったが、令和 7 年 3 月 31 日時点では 11 名となり、加算取得増となった。
3. 入居者の嗜好・要望には可能な限り対応し、入居者の体調等に応じた食事提供に努めた。家族からの差し入れ等には個別対応し、また、家族より差し入れの相談には、適宜応じた。ほぼ毎月ナリコマの担当者と協議し、検食結果や気づき、要望（入居者や他部門からの意見も含む）等を伝え、食事内容の改善に繋がるよう努めた。少人数の入居者を対象に、非常食の提供訓練を行った。
4. 経口摂取が可能な入居者には、本人・家族の意向を踏まえて、多職種と協議し、無理のない食事形態・内容・量にて食事を提供した。最期まで口から食べる楽しさを継続できるよう努めた。看取りの入居者の中には、経口摂取が困難なため、点滴対応とした方もあった。
5. 衛生管理について感染症や食中毒予防についての施設内の勉強会には参加し、

個々の衛生意識を高めた。また、感染症・食中毒予防委員会と合同で食中毒対応訓練を行い、キッチン職員の食中毒発症時のキッチンの初動の動きを再確認し、備蓄品・備品の見直しをした。職員の新型コロナウイルス、感染性胃腸炎の罹患があったが、いずれも入居者や他の職員への感染拡大はなかった。

〈グループホームさわらび〉

1. 利用者に季節を感じてもらえるよう季節感のある装飾を意識した。また行事（花見、盆、正月、彼岸等）やドライブを取り入れて気分転換や単調な日常生活にならぬように努めた。その結果、認知症の緩和につなげることができた。
「ふれあいの湯」を活用し、温泉気分を味わって頂いた。
2. 日々の活動や言動からニーズを抽出し、多角的に検証しケアプランにつなげた。利用者の持てる力（自立性）を見極め、支援に役立てた。
また帰宅願望のある方には、不安を取り去れるよう、その方に寄り添いながら支援することで、穏やかに過ごしてもらうことが出来るようになった。
3. 健康面のケアとして排泄、水分、栄養、睡眠を重視した。その結果、体調不良が少なかった。また体調の変化があった際は、都度かかりつけ医中島先生に相談し指導を仰いだ。さらに感染予防に努め、昨年度は感染者ゼロを達成した。
4. 医療機関と連絡が取れるようになり、利用者の急変時など慌てることなく対応できた。また利用者が入院の際は、日頃の生活の様子を入院先に情報提供し治療に役立ててもらった。
大田市立病院との定例会議に毎月1回出席した。
5. 利用者の楽しみの一つである「食」を大切に旬や地元の食材等を利用し、グループホームならではの食を提供し、利用者に喜ばれた。
誕生日は利用者の希望献立とし、満足して頂いた。
6. 家族には「安心感」を提供するために、連携を密にとるよう努めた。その結果、外部評価のアンケートでは全ての家族より、事業所に対し「満足」との評価を頂くことが出来た。
年4回のグループホーム便りを発行して、生活の様子（行事等）を家族へ伝えることができた。また希望される家族には写真をメールで送り、タイムリーに利用者の様子を伝えることも行った。
7. 地域との交流（地元の文化祭へ出展、サロンに参加等。）を図ることができた。
また開所記念日や敬老会には、地元ボランティアを迎える等地域との交流を一層深めることが出来た。その結果、地域の方にグループホームの理解を深めてもらうことができたと思う。
8. 同一法人の居宅介護事業所との合同委員会（虐待予防・身体拘束廃止）を実施し、研修会も行った。
9. 防災対策として地元の消防団と合同訓練を行い、地元の方にグループホームの内覧もして頂いた。避難時の協力について話し合うことも出来た。災害対策として大きな一歩を踏み出すことが出来た。継続して連携につなげていきたい。

〈特別養護老人ホームゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)〉

＜ゆうイングさわらび＞

1. 法人本部としての役割、特に人材確保については、事業所間の調整をしながら、補充を図った。
2. 法人内での人事交流を実施することができた。
3. 島根県大会での事例発表、中国大会及び全国大会への研修参加を積極的に進め、職員の資質向上に向けた支援を図った。
4. 介護職員初任者研修への講師派遣（16名）、トリニティカレッジの実習受け入れ等を実施し、職員採用につなげることができた。
5. 感染予防により地域との直接的な関わりは持てていないが、老人会へのマイクロバス貸出により活動支援を行った。

＜相談員部門＞

1. 契約入所については、措置入所、老健、病院ロングショートから受け入れ、比較的スムーズな調整ができた。
短期入所については、前年同様の受け入れとなっているが、7月に発生した新型コロナウイルス感染症のクラスター時には、ロングショート以外のショート利用者を全てキャンセルし、一日あたりの利用者が2から3名に留まる期間が続いてしまった。
介護更新申請で介護度が下がり、特養対象とならない利用者があった。初めてのケースであったが、退所、次の受け入れ先、及び入所についての相談支援を行った。
2. 法話会の再開、音楽クラブの継続により、利用者の楽しみの場が増えている。ドライブについては、クラスター、猛暑等でタイミングを逸し、桜のシーズンのみの実施となった。
3. 移乗用リフトの増台、眠りスキャン、インカムを取り入れ、利用者の快適な生活職員の負担軽減を図っている。年度末の導入であったため、成果については、生産性向上委員会等で引き続き検証していく必要がある。

＜介護支援専門員部門＞

1. 家族の担当者会議の出席率50%。新型コロナウイルス・インフルエンザ、2回のクラスターが発生し、家族不参加で開催せざるを得ない月があったが、その場合には、電話や面会時に家族の意向を必ず聞き、プランに反映した。
2. 看取り介護は8名、家族の面会時に入室し、会話の中で入所前や携わってこられた仕事の話を聞くことができた。本人への声掛けの際にこの情報を活かし、担当ヘルパーと相談しながらプラン作成ができた。
3. 短期入所者の担当者会議に出席し、居宅ケアマネから依頼があれば照会として返答した。短期入所の送迎時等を利用して、家族・他事業所・居宅ケアマネと連携し短期入所以外時以外の様子を把握、情報共有して統一したケアに努め、利用者・家族に安心感を持ってもらえるよう支援した。
4. 看護師・管理栄養士・訓練指導員とも連携をとり、利用者に合った食事形態、ベ

ッドマットの検討など状態に合わせた変更を行った。

5. LIFE のフィードバック内容を検討し、分析の結果を踏まえて食前の嚥下体操を実施している。

<機能訓練部門>

1. 機能訓練の実施結果として、身体機能が回復し、介護度が下がった方は2名おられた。うち1名は、要介護度4から2となりグループホームへ移ることが出来た。参考値として、令和6年3月時点、施設平均介護度4.31、令和7年3月時点、施設平均介護度4.33。令和7年3月時点、島根県同規模施設平均介護度4.15。
2. 褥瘡が出来た際は、ポジショニング画像を居室に掲示し、他職種と連携してポジショニングを実施した。LS利用者で、入所時点で褥瘡があったが、入所から2週間で治癒したケースが1件あった。
3. 小集団での体操では、頭を使った手指の運動やボール運動を取り入れ、楽しみを持って取り組んでいただけた。しかし、体操や人との関りを好まない方もいた為、個別に行うよう配慮をして実施した。
4. LIFE フィードバックから状況把握、訓練計画の立案に活かした。他職種と訓練計画について意見交換が十分にできなかった為、担当者会議や他職種連携会議で話し合いの機会を作ることが課題となった。

<ゆうナース部門>

1. 肺炎等の疾病の他、骨折、認知症の悪化による精神科への入院、癌治療等、年間15名の入院があった。最長の入院期間は3ヶ月に及ぶこともあった。
中島先生とは、回診、往診の他、電話やFAXに加え、メール等で画像を送信し、よりの確な上申に努めた。
介護職員との連携は、随時口頭で行う他、ミーティング用に申し送り文章を作成し、その日にいない職員にも様子が伝わるよう心掛けた。
2. 死亡者13名、前年度からの看取りを含め、看取りでの死亡は8名だった。看取り開始後は個室での面会とし、家族と積極的な関わりを持つことができた。入居者の以前の様子や、最期の時の要望など、聞き得たことは他職種と情報共有し、声掛けや食事などのケアに活かすことができた。
3. 医務連絡は簡潔にわかりやすく作成するように努め、ミーティングに参加した看護師は必要なことを補足説明した。
外部の研修に参加し、吸引カテーテルの消毒方法を変更するなど、柔軟な対応をしている。
他科受診により、毎日注射を実施する等の新しい処置や、疾病治療に関することも、わからないことは自己学習に努めている。

<ゆうヘルパー部門>

1. フェースシートにて個々の状態の把握と生活歴を知り、入居後はその方とのコミュニケーションを通して得た情報の共有を行い、多職種と連携しその方に合ったケアの実践を行った。その方の様子や状態についての情報交換を行い、家族の方にも安心感を持った介護に努めた。季節ごとの行事を行う事で、季節ごとの変化や、食べ物、職員との交流を通して楽しんでいただくことが出来た。

2. 令和6年度は8名の看取り介護に関わることができた。家族の方には安心していつでも面会が出来るようにベランダから出入りできる個室への居室移動を行い、急な面会にも対応できるように配慮を行った。面会の際には些細な変化や様子についても説明と報告を行った。職員が訪室し声掛けや環境の整備を行った。
3. 外部研修としてユニットリーダーの研修に参加。老施協の県大会、中国大会、全国大会に参加させていただいた。内部の勉強会で各委員会必須の勉強会（高齢者虐待、身体拘束防止、KYT勉強会、アンガーマネジメント勉強会、訓練指導員により移乗の勉強会等）
眠りスキヤンの導入により利用者の状態把握。心拍、睡眠時間、離床時間を視覚化することで様子把握ができた。
4. 今年度は7月にコロナウイルス、1月にインフルエンザ感染症が発生。感染症委員会を中心にゾーニング、感染防護の方法、日々の感染状況、対応方法などの情報更新を行い、早々の終息を迎える事が出来た。感染経路については、短期入所の利用者や職員が原因となった。

<ゆうキッチン部門>

《調理》

1. 季節ごとの行事食・お楽しみ弁当は毎月提供することができ、その都度カードを作り視覚からも楽しんでいただけた。お楽しみ弁当は喜ばれる入居者が多いも、お弁当箱での食べにくさを感じている入居者もおられ、入居者の状態によって提供法を変えるなどの配慮が必要であると感じた。
2. 看取りの方も他部門との連携で状態把握ができ、必要に応じた対応で食事提供ができた。
3. コロナウイルス・インフルエンザ感染の予防に努めたが、7月に厨房内の職員3名が同時にコロナウイルス感染した。他部門の協力も得て、お弁当での提供を実施し、少ない人数の中でも厨房内のマニュアルに沿って安全な食事提供を継続することが出来た。
食中毒注意報は夏季に8回発令されたが、安心安全な食事提供ができた。
4. 有事を想定した非常食提供を今年度も実施することができた。迅速に対応できるよう備品等の備蓄や年一回の非常食提供を継続して行っていきたい。

《栄養》

1. 入居者と積極的に関わり、入居者の様子、嗜好等を把握するよう努めたが、もう一歩踏み込んでどう改善すれば入居者にとってより負担のない食事提供となるのか、担当者会議をより活用して、行動に移すことが今後の課題であると感じた。
2. 入居者、家族の意向を聞き、多職種と連携して経口摂取が維持できるサポートを継続して行うことができた。
3. ショート利用者の療養食対応も積極的に行うことができた。短期間の場合もあったが、そのまま入所になられた方もおられ、スムーズに療養食加算対応ができた。
4. LIFEのフィードバックは今年度十分に活用することはできなかったが、PDCAサイクルを確立し多職種で検討する土台を作って今後活用していきたい。
5. 現場経験と、管理栄養士業務を両立させ、業務が滞ることがないように、業務内容

の見直しと作業の効率化に努めていきたい。

〈デイサービスセンターゆうイング〉

1. R6 年 7 月より地域密着型に移行の際、新しいパンフレットを用意し各事業所、利用者、家族へ移行をお知らせし、利用者への契約書の取り直しを行い順調に移行できた。
2. 地域密着型への移行の際、登録されている利用者全員、単価が上がったためオーバー単位になる方も含め移行することができ、益々信頼関係を大事していきたい。月 1 回の散髪支援、お花見ドライブ、お出掛け買い物支援等、独居の利用者の支援や出かけにくい利用者の支援ができ、利用者や家族に好況を得ている。
3. 送迎は、各利用者に合わせて早迎え、遅迎え、ベッドへの送迎、鍵の開閉等対応した。
現在、遠くは佐津目、池田、小屋原への送迎を早出出勤で実施している。今後も大田市内で長久から距離のある方の利用も利用者増のために積極的に対応していきたい。
4. 感染症対策として、必ずマスク着用、手指消毒、日中 2 回の検温を徹底した。
5. 7 月より機能訓練加算を実施し個別に対応しました。自宅での生活を想定し歩行をする機会を作った。
6. LIFE は研修を受け、プランの評価に活かし、ケアマネにも添付した。

〈居宅介護支援センターさわらび〉

1. 苦情件数無し。アンケート調査実施(9 割以上がケアマネに対し高評価)。その他「訪問滞在時間を 30 分程度にしてほしい」「利用料金の説明をしてほしい。」等の意見があった。今後も定期的にアンケート調査を行っていく。
2. 入退院時、かかりつけ医との連携は取れた。その結果タイムリーにサービス提供できた。
3. 利用者支援に対し、民生委員との連携は取れた。しかし、まちづくりセンターとの連携は、なかなか取れず、利用者とまちづくりセンターの接点の意識が不足しているのかもしれない。今後「通い場」利用者については、まちづくりセンターとも連携を図っていく。
4. 災害 BCP は継続的見直しをしており、事業所として災害への意識は高まってきている。一方、感染症への取組みが少なく、今後の課題となる。災害対策を考えれば考えるほど「連携」の部分で躓きが出てしまう。日々の業務とは異なった有事の時、各関係機関との連携の難しさを痛感している。事業所単位でできる有事への対応は自助、互助と認識。その種まきは今後もしていく。
5. グループホームと虐待防止対策委員会、研修会を合同で実施。次年度は施設（特養）とも連絡を取り合っていきたい。
6. 予防給付について市内で「指定申請」をしている事業所はゼロ。よく検討してみ

ると「指定申請」により、事業所負担増になる部分も想定されるため、申請中止とした。今後も引き続き「業務委託」という形で予防給付については対応していくこととする。

7. 延べ 32 研修参加。複雑化していく支援状況、ケアマネに求められる質の変化もあり、今の姿勢は引き続き維持していく。

〈サンチャイルド長久さわらび園〉

1. 保育園の運営について

- ・大田市では、少子化が加速し、令和 6 年の出生数は 130 名を切っている。
入所については、4 月 1 日 115 名（そのうち 0 歳児は 4 名）でスタートし、0 歳児中心に中途入所受け入れ、年度末には 0 歳児 16 名を含む 128 名となった。

2. 保育について

- ・保育目標に掲げる「いきいきとかがやく太陽の子」に基づき、子どもたちが主体的に遊びや生活を楽しむことができる「主体的保育」に取り組んでいった。大田市保育研究会の研修においても「子ども主体の保育とは」について学び、改めて一人一人の子どもを理解することや人権を尊重することの重要性を感じた。「主体的保育」については、どのように実践していくか今後の課題にもなっている。
- ・令和 6 年度 9 月より、豊かな言語獲得を目指し、子どもの本屋さん松本栄野氏による「言語脳科学」の研修を行っている。12 月、3 月と 3 回研修を終えたところである。子どもへの意識した声掛けを実践していき、令和 7 年度も継続して行っていく。
- ・デジタル化が急速に進む中、「メディアと子どもの発達について」の研修を受け、子どもの発達への影響を心配するなかで、家庭にも情報発信する必要性を感じた。保護者会の行事に同じ内容で、講師に研修を依頼し、保護者研修を行った。保育園での実体験を大切に、保育を行っていきたい。
- ・コロナ禍より中止になっていた、長久小学校との交流が復活し、年長児と小学一年生が保育園で交流活動を行うことができた。幼小連携・接続に係る合同研修会においても、5 歳児の公開保育を行い、小学校にも参加を呼びかけ、幼児教育の理解や、接続に向けての取り組みをともに考える、よい機会になった。小学校との連携がより進むよう継続して取り組んでいきたい。
- ・コロナ禍より中止になっていた親子クッキングと、保育参観の給食の試食を再開した。親子クッキングでは、親子でお弁当作りや、お祝いメニューなどを作り再開されたことを喜ぶ声が多く聞かれた。また、誕生会に参加された保護者に「世界の料理」を試食していただくこともできた。その他、「絵本給食」「日本の郷土料理」など、様々な取り組みも紹介していった。

〈ゆうゆう学童クラブ〉

1. 運営について

- ・長久小学校で放課後、保護者の就労等により保育を必要とする児童に、安心して、のびのびと放課後過ごせる場所を提供することに努め、児童の健全な育成を図った。
- ・今年度もスタッフ不足や諸事情の為ため、土曜日の活動を4月から6月までとし、サンチャイルドへ支援員を派遣して実施した。(年間の開所日数が250日以上という基準があり、全土曜日を休所することはできないため)
- ・従来の補助金だけでは、施設整備の充実が図れなかった。

2. 児童の受け入れ実績

		令和6年度	令和5年度
・開所日数		251日	252日
・登録児童数	年間	586人	584人
	年間平均	49人	49人

3. その他

- ・基本的生活習慣を身につけさせるため、学童クラブでの過ごし方をパターン化し、一日の流れを自覚できるように努めた。(着替え5分、おやつ10分、宿題30分)
- ・習慣遊びに関しては、異学年が仲良くできるルールを話し合っ活動した。
- ・個人遊びに関しては、一輪車が女子に人気が高く、順番を待って練習するほどであった。男子はサッカーなど、勝敗を競い合う場面なども見受けられた。また、裸足での砂場遊びも多く、トンネル作りや団子作りなどに夢中であった。
- ・学習面に関しては、宿題を自主的に取り組ませることで、スタッフ全員で分担し、集中して取り組めるようにしている。
- ・各活動の報告、写真(花見、散歩等)の掲示及びお便りを発行し、保護者への理解を図った。
- ・教室移動について
 - ホールを遊び専用にする
 - ・3年生を多目的室へ移動(円卓使用)
 - ・1年生を3年生の教室へ移動
- ・事務室としての独立
 - 使い勝手の良い事務室にする
 - ・DVD(TV)をホールへ
 - ・図書室借用本をホールへ
 - ・救護室の整備(ロッカーを事務室へ)